

佳作

未来への一步

宮城県大崎市立古川東中学校

1年 品川 詩葉

中学生になり、もうすぐ5カ月が経ちます。私がいた小学校は、1学年1クラス20人の小さい規模でした。そこから、1学年6クラス、1年生214人の中学校に入学し、初めは人の多さに驚き、なかなか慣れませんでした。今はだいぶ人の多さに慣れましたが、今度は、小学校とは違う授業や宿題、部活動、係の仕事など日々の学校生活に食らいついていくことで精っばいです。

私はマイペースで、時間管理が苦手です。頭では分かっているけど、やらなければならないことを後回しにして、趣味など他のことに時間を使いすぎてしまいます。小さなことでも気になって集中できない、飽きやすいところも、日々の余裕のなさの一因です。小さな音や他の人の機嫌、場の空気がすごく気になってしまいます。例えば、その人の表情や口調で、怒っている、悲しんでいるなどの感情を読み取って、自分のことのように心が傷ついてしまいます。自分でも気にしないようにしたいと思っていますが、なかなか難しいのです。

中1の4カ月半を必死に走り抜けて、夏休みの今、一息ついて考えてみました。この先の、私の毎日について、そして将来について。将来の自分は、勉強や仕事、子育て、どの状況でも、今と同じく忙しい日々についていくことで必死だと思えます。今の日本の女性の平均寿命は87歳。これからその歳まで生きられたとして、あと74年あります。そう考えると、目の前のことに常に追われる毎日が、これから74年もあるんだと思うと少し呆然としてしまいました。忙しく「やらなければならないこと」に追われる毎日。目の前の楽しいことについて流されて「ああ、しまった……」と反省する毎日。未来って、もっと明るくて希望にあふれているものであってほしいのです。でも、私はいつも自分の目の前のことで精っばいなのです。中1の私が「誰かのために」「社会のために」何かをやる姿を想像することができません。でも、未来を想像する時、いつか自分が誰かのために何かできる、と思いたいのです。

世界にたくさんの課題がある今、私は何ができるでしょう。私たち10代は、今後の日本を担う存在で、そんな期待に不安を感じている人も少なくないと思います。胸を張って社会に貢献しているといえるような大きいことは難しいですが、一人でも多くの困っている人の役に立ちたいと思います。誰かの役に立つ、誰かに必要とされる、そんな大人になりたいのです。

私の将来の夢は、本に関係する仕事に就くことです。小さい頃から、寝る前

に両親に絵本の読み聞かせをしてもらい、常に本がそばにあり、本に親しんできました。最近小説も少しずつ読むようになって、それが日々の息抜きの時間になっています。大好きな本に囲まれて仕事ができるのは幸せだと思うし、私のような、本が息抜きになっている人はもちろん、本の楽しさを感じられる人が一人でも増えたら嬉しいなと思います。まだはっきりとどんな仕事がしたいかは定まっていませんが、自分と同じ気持ちの人に本を届けたいし、読書の喜びを、一人でも多くの人に感じてもらえるような仕事に就きたいです。

人の機嫌や場の空気に過敏な私ですが、それって、相手の気持ちを感じとれるということでもあると思います。人と関わる難しさ、わずらわしさはあるけれど、人と関わることは好きです。相手が何を求めているのか、感じるだけで終わらせず、何かアクションを起こせるようになったら、この過敏さは私の長所になると思うのです。

今の忙しい毎日の中でも、マイペースで過敏な自分でも、豊かな時間を送っていくために、心がけたいことがあります。それは、気になってしまうことも明るく受け流すこと。自分を肯定的に捉えること。そして、いつも助けてくれる周りの人への感謝を忘れないこと。この三つを心がけて、豊かな人生を送っていきたいと思います。

今、自分が精いっぱい頑張ることは、全て、今後の未来につながっています。成功も失敗も、全てが自分の大切な人生経験となり、足跡となって残っていくのだと思います。だから、毎日、未来への一步を踏み出していきたいです。中1の夏休み、自分の「今」と「未来」をじっくり考えられたことは、これも重要な一步になりました。つらい時、大変な時もこの先たくさんあると思いますが、そんな時、今日のこの一步を思い出せば、ちょっと気持ちに余裕を持てると思います。このように、一度止まって考えるのも、これからの自分の経験値につながって、生きてくるのだと思います。明日はどんな一步を踏み出せるのか、楽しみながら、一步ずつ進んでいきます。